

酪農学園大学学生の就職に対する意識

松 本 懿*・高 取 則 彦**

A Survey on Attitudes of Rakuno Gakuen University Students toward Jobs

Atsushi MATSUMOTO* and Norihiko TAKATORI**
(Accepted 9 July 2010)

1 調査の目的

厳しい雇用情勢が続く中、就職内定を得られない学生が増えてきている。それ以前に、やりたいことが見つからないなどの理由で就職活動自体に消極的だったり、活動を始めてもすぐに諦めてしまう学生が目につく。せっかく就職しても早期に辞めてしまうケースも少なくない。

今日、大学には、学生が自分に合った仕事を見つける能力、厳しい就職戦線に挑戦・突破する能力、卒業後は自立して遅く働く能力などをトータルに育むこと、換言すれば「就業力」を育成することが求められている。

では、就業力の育成に取り組むとして、具体的なテーマないし切り口はどの辺りか。それを探るため、酪農学園大学の学生を対象にして就職に対する意識調査を実施した。

2 調査のフレーム

(1) 対象と内容

酪農学園大学の酪農学科、農業経済学科、食品科学科、食品流通学科、環境マネジメント学科、地域環境学科、生命環境学科の3年生を対象に、次の4項目についてアンケート調査を行った。

- ① 卒業後の希望進路
- ② 企業選択のポイント
- ③ 就職に対する価値観
- ④ 学生採用にあたり企業が重視していると思う点

(2) 時期と方法

2009年12月1日から12月18日にかけて、各学科の教員の協力を得て、それぞれの授業開始時または終了時にアンケート調査用紙を配布、回収してもらった。

(3) 回収数と内訳

308名から回答を得た。表1は、その学科別、男女別の内訳である。学科別のみならず、男女別の特徴にも興味があるが、女子の回答数が少ないことから、ここでの分析・検討は男女計で行うこととする。

(4) その他

調査の対象や時期などが異なるため単純には比較できないが、本学学生の就職に対する意識や行動の特徴をより鮮明にするため、以下の調査報告を参考にアンケートを設計した。調査結果については、それらと極力比較しながら分析・検討することとする。

表1 男女別回答者数

単位：人・%

	酪農	農経	食科	食流	環マネ	地域	生命	合計	
男	24	37	26	24	22	38	43	214	69.5
女	16	3	17	7	4	16	31	94	30.5
合計	40	40	43	31	26	54	74	308	100.0

* 酪農学園大学環境システム学部環境マネジメント学科経営学研究室

Department of Environmental Management, Business Administration, Rakuno Gakuen University, Ebetsu Hokkaido, 069-8501, Japan

** 酪農学園大学環境システム学部環境マネジメント学科情報工学研究室

Department of Environmental Management, Computer Science, Rakuno Gakuen University, Ebetsu Hokkaido, 069-8501, Japan

- ① マイナビ『大学生の就職意識調査(10卒版)』
(以下、全国調査)
② 日本経済団体連合会『2008年度新卒者採用に
関するアンケート調査結果』(以下、企業調査)

3 調査結果と考察

(1) 卒業後の希望進路

卒業後の希望進路を2つ選んでもらった(「現段階で全く分からない」場合は、1つのみ)。表2は、それを集計したものである。この設問への回答307名中、「中小企業ないしベンチャー企業」が42.7%、「大手の民間企業」が40.7%でトップ、農協などの「団体」が24.8%で第3位であった。「家業を継ぐ」「大学院進学」「公務員」が、それぞれ11%~15%を占め、第2集団を形成する形となっている。

学科別にみると、酪農学科と農業経済学科で「団体」と「家業を継ぐ」の割合が多いことが特徴的である。特に酪農学科では「団体」が40.0%、農業経済学科では「家業を継ぐ」が45.0%に上っている。食品科学科、食品流通学科、環境マネジメント学科は、「大手の民間企業」「中小企業ないしベンチャー企業」「団体」などの割合が多く、総じて民間志向である。その中でも、環境マネジメント学科の場合は「中小企業ないしベンチャー企業」が80.8%と突出し、「起業したい」も11.5%を占めた。地域環境学科と生命環境学科では、「大学院進学」(それぞれ13.0%、28.8%)と「公務員」(同22.2%、23.3%)を希望する割合が比較的多いことが目立っている。

なお、調査時点が、就職活動がすでに本格化した3年生の12月ということもあってか、「現段階で全く分からない」とする学生は7.2%と比較的少なかった。この7.2%を上回った学科は、食品科学科(11.6%)、地域環境学科(7.4%)、生命環境学科(9.6%)の3学科であった。

(2) 企業選択のポイント

表3は、全員が民間企業に就職すると仮定して、企業を選ぶ際のポイントとなりそうな21の項目を用意し、主なもの3つまでを選択してもらった結果である。上位3項目は「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」59.0%、「安定している会社」43.3%、「働きがいのある会社」28.7%であった。これに「自分の能力・専門を活かせる会社」21.8%、「給料のよい会社」19.9%、「一生続けられる会社」16.6%などが続いた。

表4は、本学学生の回答と、マイナビによる全国約15,000人の学生を対象にした調査結果の上位5項目である。これらを比較すると、例えばマイナビのベスト3も「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」(39.1%)、「安定している会社」(26.0%)、「働きがいのある会社」(20.7%)で、本学学生とその順位まで一致するなど、全体的にはほぼ同様の傾向が見られた。つまり、企業選択にあたっては、本学の学生、全国の学生ともに、自分のやりたい仕事ができ働きがい得られることと、安定や安心が得られることの両面を重視する点で共通していた。

学科別では、例えば酪農学科、食品科学科、生命環境学科の理系3学科では「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」と「自分の能力・専門を活かせる会社」を、農業経済学科と食品流通学科では「安定している会社」を、環境マネジメント学科では「これから伸びそうな会社」「いろいろな職種を経験できる会社」を、地域環境学科では公務員希望が強いことも反映してか「勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社」や、「社風が良い会社」などを挙げる割合が、それぞれ比較的多いことが目立った。

(3) 就職に対する価値観

表5は、就職に対する価値観について、9項目の

表2 卒業後の希望進路

	酪農		農経		食科		食流		環マネ		地域		生命		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
大手の民間企業	11	27.5	12	30.0	23	53.5	19	61.3	16	61.5	23	42.6	21	28.8	125	40.7
中小企業ないしベンチャー企業	13	32.5	9	22.5	24	55.8	16	51.6	21	80.8	19	35.2	29	39.7	131	42.7
団体(ホクレン、漁連、農協、生協など)	16	40.0	9	22.5	10	23.3	12	38.7	4	15.4	16	29.6	9	12.3	76	24.8
家業を継ぐ	13	32.5	18	45.0	1	2.3	2	6.5	1	3.8	0	0.0	0	0.0	35	11.4
起業したい	2	5.0	2	5.0	0	0.0	1	3.2	3	11.5	2	3.7	3	4.1	13	4.2
大学院進学	2	5.0	1	2.5	3	7.0	0	0.0	0	0.0	7	13.0	21	28.8	34	11.1
公務員	3	7.5	6	15.0	3	7.0	1	3.2	3	11.5	12	22.2	17	23.3	45	14.7
教員	4	10.0	3	7.5	2	4.7	0	0.0	0	0.0	3	5.6	2	2.7	14	4.6
その他	5	12.5	2	5.0	2	4.7	3	9.7	2	7.7	6	11.1	10	13.7	30	9.8
現段階では全く分からない	2	5.0	2	5.0	5	11.6	1	3.2	1	3.8	4	7.4	7	9.6	22	7.2
合計	40	100.0	40	100.0	43	100.0	31	100.0	26	100.0	54	100.0	73	100.0	307	100.0

注) 主なもの2つまで選択。「現段階では全く分からない」場合は1つのみ。

表3 企業選択のポイント

	酪農		農経		食科		食流		環マネ		地域		生命		合計		全国
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	%
安定している会社	19	47.5	22	55.0	16	37.2	21	67.7	9	34.6	24	44.4	22	30.1	133	43.3	26.0
これから伸びそうな会社	2	5.0	3	7.5	2	4.7	4	12.9	6	23.1	3	5.6	5	6.8	25	8.1	8.7
給料のよい会社	13	32.5	11	27.5	7	16.3	7	22.6	8	30.8	6	11.1	9	12.3	61	19.9	10.3
自分のやりたい仕事(職種)ができる会社	27	67.5	19	47.5	27	62.8	13	41.9	13	50.0	30	55.6	52	71.2	181	59.0	39.1
有名な会社	1	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	7.7	3	5.6	0	0.0	6	2.0	3.4
休日、休暇の多い会社	2	5.0	4	10.0	6	14.0	3	9.7	2	7.7	6	11.1	6	8.2	29	9.4	4.4
勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社	5	12.5	0	0.0	9	20.9	6	19.4	5	19.2	14	25.9	9	12.3	48	15.6	15.4
転勤のない会社	4	10.0	4	10.0	5	11.6	4	12.9	1	3.8	4	7.4	4	5.5	26	8.5	5.0
海外で活躍できそうな会社	1	2.5	2	5.0	0	0.0	0	0.0	1	3.8	1	1.9	4	5.5	9	2.9	5.4
いろいろな職種を経験できる会社	1	2.5	3	7.5	0	0.0	1	3.2	5	19.2	0	0.0	2	2.7	12	3.9	2.6
自分の能力・専門を活かせる会社	13	32.5	9	22.5	13	30.2	2	6.5	2	7.7	6	11.1	22	30.1	67	21.8	9.6
大学・男女差別のない会社	1	2.5	1	2.5	2	4.7	4	12.9	2	7.7	5	9.3	7	9.6	22	7.2	4.1
若手が活躍できる会社	0	0.0	2	5.0	2	4.7	1	3.2	0	0.0	3	5.6	0	0.0	8	2.6	2.3
事業を多角化している会社	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.8	0	0.0	1	1.4	2	0.7	0.8
働きがいのある会社	10	25.0	13	32.5	16	37.2	8	25.8	5	19.2	13	24.1	23	31.5	88	28.7	20.7
志望業種の会社	2	5.0	2	5.0	1	2.3	3	9.7	3	11.5	4	7.4	5	6.8	20	6.5	3.9
親しみのある会社	7	17.5	4	10.0	9	20.9	7	22.6	3	11.5	7	13.0	10	13.7	47	15.3	6.1
社風が良い会社	4	10.0	2	5.0	4	9.3	1	3.2	3	11.5	13	24.1	8	11.0	35	11.4	18.2
一生続けられる会社	6	15.0	9	22.5	4	9.3	4	12.9	2	7.7	10	18.5	16	21.9	51	16.6	10.2
研修制度のしっかりしている会社	1	2.5	2	5.0	2	4.7	1	3.2	3	11.5	4	7.4	3	4.1	16	5.2	4.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	1	0.3	—
合計	40	100.0	40	100.0	43	100.0	31	100.0	26	100.0	54	100.0	73	100.0	307	100.0	100.0

注1) 民間企業に就職すると仮定して主なもの3つまで選択。

2) 「全国」は、マイナビ『大学生の就職意識調査(10卒版)』による(http://job.mynavi.jp/conts/mcs/enq_gakusei/ishiki/ishiki09/data03.html)。

表4 企業選択のポイント～上位5項目～

単位：%

	全国	本学学生
1	自分のやりたい仕事(職種)ができる会社 39.1	自分のやりたい仕事(職種)ができる会社 59.0
2	安定している会社 26.0	安定している会社 43.3
3	働きがいのある会社 20.7	働きがいのある会社 28.7
4	社風が良い会社 18.2	自分の能力・専門を活かせる会社 21.8
5	勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社 15.4	給料のよい会社 19.9

注1) 民間企業に就職すると仮定して主なもの3つまで選択。

2) 「全国」は、マイナビ『大学生の就職意識調査(10卒版)』による(http://job.mynavi.jp/conts/mcs/enq_gakusei/ishiki/ishiki09/data03.html)。

中から最も重視するもの1つを選択してもらった結果である。最も多かったのは「楽しく働きたい」で34.0%、次いで「個人の生活と仕事を両立させたい」20.6%、「自分の夢のために働きたい」11.8%の順であった。「人のためになる仕事をしたい」(9.5%)や「社会に貢献したい」(3.6%)といった項目への回答は少なく、一ヶ台に止まった。

全国調査との比較では、例えば「収入さえあればよい」が全国2.1%、本学11.4%と若干ニュアンスの違いもあったが、全国の場合も「楽しく働きたい」(35.3%)、「自分の生活と仕事を両立させたい」(22.7%)が1位と2位を占めるなど、全体的にはほぼ同じような傾向を示した。

「フォー・ミー」ではなく「フォー・ユー」、つまり「誰のために、何をするのか」を考えることこそ

が、本来の就職活動である」という考え方がある。換言すれば、就職するということは、人の役に立つ、社会に貢献するということであり、楽しく働ける、夢が実現する、生活と仕事が両立しているといった領域に到達するには、実は相当の時間と忍耐が必要であるということでもある。この辺りの認識の如何が、近年の離職率の高さに関係しているとも考えられる。

学科別に見ても、例えば農業経済学科と食品流通学科で「楽しく働きたい」(それぞれ42.5%、51.6%)、酪農学科と生命環境学科で「自分の夢のために働きたい」(それぞれ20.0%、19.2%)、食品科学科と地域環境学科で「人のためになる仕事をしたい」(それぞれ16.7%、16.7%)などがそれぞれやや多いが、総じて際立った特徴は見られなかった。

表5 就職に対する価値観

	酪農		農経		食料		食流		環マネ		地域		生命		合計		全国	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
取入さえあればよい	6	15.0	7	17.5	5	11.9	1	3.2	3	11.5	6	11.1	7	9.6	35	11.4	324	2.1
楽しく働きたい	9	22.5	17	42.5	13	31.0	16	51.6	8	30.8	14	25.9	27	37.0	104	34.0	5,396	35.3
自分の夢のために働きたい	8	20.0	2	5.0	4	9.5	2	6.5	4	15.4	2	3.7	14	19.2	36	11.8	1,642	10.7
個人の生活と仕事を両立させたい	10	25.0	7	17.5	7	16.7	8	25.8	5	19.2	16	29.6	10	13.7	63	20.6	3,470	22.7
プライドの持てる仕事をしたい	4	10.0	3	7.5	1	2.4	1	3.2	2	7.7	2	3.7	7	9.6	20	6.5	1,529	10.0
人のためになる仕事をしたい	2	5.0	2	5.0	7	16.7	3	9.7	2	7.7	9	16.7	4	5.5	29	9.5	1,978	12.9
出世したい	0	0.0	0	0.0	2	4.8	0	0.0	1	3.8	1	1.9	0	0.0	4	1.3	164	1.1
社会に貢献したい	0	0.0	1	2.5	2	4.8	0	0.0	1	3.8	4	7.4	3	4.1	11	3.6	782	5.1
その他	1	2.5	1	2.5	1	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4	4	1.3	—	—
合計	40	100.0	40	100.0	42	100.0	31	100.0	26	100.0	54	100.0	73	100.0	306	100.0	15,285	100.0

注1) 最も意識するもの1つ選択。

2) 「全国」の人数・%の出所は、表2に同じ。

(4) 学生採用にあたり企業が重視している点

近年、実に真面目に活動しても、なかなか内定を得られない学生から、面接の過程で「なぜ落とされたのかが解らない」という声をよく聞く。一方、企業からは「物足りない」「説得力に欠ける」との感想を聞かされる。つまり、学生がイメージする人材像と、企業が実際に求めている人材像の間にズレがあるのではないか。

表6は、日本経団連が会員企業に行った『2008年

度新卒者採用に関するアンケート調査結果』（回答455社）の中にある「選考にあたっての重視点」と、同じ25の選択肢について今回学生が見積もった「企業が学生採用に際して重視していると思う点」を並べて示したものである。表7に、企業の回答と学生の回答のうち上位10項目を示す。

まず、学生の回答である。上位10項目は、「一般常識」66.6%、「コミュニケーション能力」56.4%、「責任感」53.1%、「協調性」51.5%、「柔軟性」32.5%、

表6 学生採用にあたり企業が重視している点

	酪農		農経		食料		食流		環マネ		地域		生命		合計		企業
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	%
一般常識	26	65.0	30	75.0	31	72.1	20	64.5	15	57.7	35	64.8	46	64.8	203	66.6	6.9
インターンシップ受講歴	0	0.0	2	5.0	1	2.3	1	3.2	0	0.0	2	3.7	1	1.4	7	2.3	0.0
学業成績	2	5.0	4	10.0	3	7.0	2	6.5	2	7.7	4	7.4	1	1.4	18	5.9	6.7
学校名	2	5.0	5	12.5	3	7.0	6	19.4	1	3.8	8	14.8	7	9.9	32	10.5	1.4
感受性	5	12.5	2	5.0	3	7.0	4	12.9	4	15.4	4	7.4	2	2.8	24	7.9	3.0
協調性	21	52.5	22	55.0	28	65.1	13	41.9	13	50.0	21	38.9	39	54.9	157	51.5	56.1
クラブ活動・ボランティア活動歴	0	0.0	4	10.0	1	2.3	3	9.7	1	3.8	3	5.6	4	5.6	16	5.2	2.5
語学力	2	5.0	2	5.0	5	11.6	1	3.2	1	3.8	4	7.4	7	9.9	22	7.2	3.7
コミュニケーション能力	23	57.5	22	55.0	26	60.5	15	48.4	15	57.7	31	57.4	40	56.3	172	56.4	76.6
主体性	7	17.5	6	15.0	6	14.0	6	19.4	8	30.8	10	18.5	10	14.1	53	17.4	55.2
柔軟性	15	37.5	13	32.5	12	27.9	10	32.3	8	30.8	15	27.8	26	36.6	99	32.5	19.5
職業観・職業意識	5	12.5	4	10.0	5	11.6	4	12.9	5	19.2	9	16.7	7	9.9	39	12.8	13.8
信頼性	7	17.5	9	22.5	9	20.9	5	16.1	10	38.5	12	22.2	26	36.6	78	25.6	15.4
誠実性	6	15.0	5	12.5	10	23.3	8	25.8	6	23.1	12	22.2	20	28.2	67	22.0	40.0
責任感	27	67.5	15	37.5	26	60.5	13	41.9	8	30.8	31	57.4	42	59.2	162	53.1	36.6
専門性	3	7.5	1	2.5	2	4.7	1	3.2	1	3.8	3	5.6	8	11.3	19	6.2	10.3
創造性	7	17.5	11	27.5	5	11.6	7	22.6	6	23.1	7	13.0	6	8.5	49	16.1	16.1
大学・所属ゼミ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.9	3	4.2	4	1.3	0.9
チャレンジ精神	16	40.0	5	12.5	14	32.6	10	32.3	13	50.0	16	29.6	17	23.9	91	29.8	51.5
ポテンシャル	6	15.0	9	22.5	2	4.7	4	12.9	3	11.5	10	18.5	6	8.5	40	13.1	24.8
保有資格	5	12.5	1	2.5	1	2.3	3	9.7	1	3.8	9	16.7	7	9.9	27	8.9	0.0
リーダーシップ	4	10.0	8	20.0	7	16.3	5	16.1	4	15.4	7	13.0	3	4.2	38	12.5	15.2
倫理観	4	10.0	9	22.5	1	2.3	0	0.0	2	7.7	2	3.7	4	5.6	22	7.2	3.0
論理性	0	0.0	0	0.0	1	2.3	2	6.5	0	0.0	0	0.0	7	9.9	10	3.3	26.2
その他	0	0.0	1	2.5	0	0.0	1	3.2	2	7.7	1	1.9	1	1.4	6	2.0	—
合計	40	100.0	40	100.0	43	100.0	31	100.0	26	100.0	54	100.0	71	100.0	305	100.0	100.0

注1) 企業サイドが重視していると思うもの5つまで選択。

2) 「企業」は、日本経済団体連合会『2008年度新卒者採用に関するアンケート調査結果』（2009年4月）の中の「選考にあたっての重視点」による。

表7 学生採用にあたり企業が重視している点～上位10項目～

単位：%

	企業		本学学生	
1	コミュニケーション能力	76.6	一般常識	66.6
2	協調性	56.1	コミュニケーション能力	56.4
3	主体性	55.2	責任感	53.1
4	チャレンジ精神	51.5	協調性	51.5
5	誠実性	40.0	柔軟性	32.5
6	責任感	36.6	チャレンジ精神	29.8
7	論理性	26.2	信頼性	25.6
8	ポテンシャル	24.8	誠実性	22.0
9	柔軟性	19.5	主体性	17.4
10	創造性	16.1	創造性	16.1

注1)「本学学生」は、企業が重視していると思うもの5つまで選択。

2)「企業」は、日本経済団体連合会『2008年度新卒者採用に関するアンケート調査結果』(2009年4月)の中の「選考にあたっての重視点」による。

「チャレンジ精神」29.8%、「信頼性」25.6%、「誠実性」22.0%、「主体性」17.4%、「創造性」16.1%の順となった。なお、酪農学科で「責任感」(67.5%)、農業経済学科で「倫理観」(22.5%)、食品科学科で「協調性」(65.1%)、環境マネジメント学科で「チャレンジ精神」(50.0%)といった項目がそれぞれ多いことが目につくものの、学科間でそれ程大きな違いはなかった。

次に、企業調査との比較である。上位10項目中、「コミュニケーション能力」「協調性」「主体性」「チャレンジ精神」「誠実性」「責任感」「柔軟性」「創造性」の実に8項目が共通した。つまり、本学学生と企業の認識には、一見殆どズレがないような結果となった。しかし、大きく異なる点や気になる点がないわけではない。ここでは4項目に絞って触れておきたい。

まずは、「一般常識」である。企業の回答割合は6.9%、順位は15位であった。学生は66.6%、第1位にランクした。企業は面接重視であり、一般常識はあくまで一定のハードルとして位置付けていると想定されるが、学生は国語、数学の基礎学力、判断力等を問われる一般常識問題やSPIなどを大変重く受け止めているのである。先輩から、「面接に至る前の一般常識段階で落とされた」という話を聞かされることもあり、就職試験を目前に自信のなさを反映した結果と見ることもできそうである。

逆に、「論理性」は、企業は26.2%、7位にランクしたが、学生は僅か3.3%、22位であった。社内外の大反対を押し切り、宅配便を構想・成功させたヤマト運輸の2代目社長、故・小倉昌男氏は、その著『小倉昌男経営学』の第15章「経営リーダー10の条件」で、第1番目に論理的思考ということ挙げて

いる。経営は、実は論理の積み重ねであり、企業が採用にあたって論理性に相当のウエイトを置いていることを、学生が認識するのは難しいことなのかもしれない。

さらに、同じ項目でも、企業と学生では認識が微妙に異なる場合があることにも注意を要しよう。例えば、「コミュニケーション能力」と「協調性」である。企業はそれぞれ1位、2位、学生は2位、4位にランクした。

一般に企業では、年齢や経験、考え方等が一様ではないメンバーがチームを組み一つの仕事を成し遂げる、そのためにも上司や顧客のニーズ、要望やクレームなどを、まずはきちんと受け止め、適切な対応を企画・構想できるといった意味合いで、協調性やコミュニケーション能力の重要性を捉える。学生の場合は、そもそも厳しい環境に身を置くことを避け、せいぜいゼミやサークル、アルバイト先など、言わば同年代で比較的気心も知れた仲間内を前提に協力し合うことができる、あるいは意見が言えることとして捉え、そうした経験や実績をアピールしがちである。これでは、なかなか内定を得られないということにもなる。

4 ま と め

学生の就業力を育成するための参考情報を得ようと、就職に対する意識調査を本学の3年生を対象に実施してみた。

その結果、まず、就職活動の前提として希望する進路が明確になっている必要があるが、就職活動がスタートした2009年12月時点での調査ということもあってか、本学学生の進路は概ね方向づけされていた。また、企業選択の着眼点や就職観などは、全

国の学生と同じような傾向にあった。学生採用にあたって企業が重視していると思う点に関しても、企業側の認識とほぼ一致していた。

しかしながら、進路が見出せていなかったり、一般常識問題に対する不安、企業が求める人材像との間の認識ギャップや就職自体に対する考え方の甘さなどを抱える学生も一定程度いることが解った。

こうした課題があることを踏まえ、今後の学生指導に関しては、単に就職対策という観点からだけでなく、入学時点など早い段階から一工夫要るように思われる。差し当たっては次のような事柄である。

- ① 基礎学力の底上げに向けて、不斷の努力を徹底させること。
- ② 異質なものを、未知なるものと大いに触れ合うような体験を通して、コミュニケーション能力や協調性などの真の意義を理解させ、身につけさせること。
- ③ そうした体験も活かしながら、その業界・企業・職種の志望理由などを、論理的に整理し、筋道立てて説明できるようにさせること。

謝 辞

アンケート調査の実施に当たって、酪農学科の野英二教授、農業経済学科の小糸健太郎准教授、食品科学科の小野寺秀一教授、食品流通学科の清野康二教授、環境マネジメント学科の玉川真弓教授、地域環境学科の押谷 一教授、生命環境学科の赤坂 猛教授に多大なるご協力をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。

参考文献

- 小倉昌男『小倉昌男経営学』日経 BP 社，1999 年。
 宮本みち子『若者が《社会的弱者》に転落する』洋泉社，2002 年。
 B-ing 編集部編『プロ論。』徳間書店，2004 年。
 越智通勝『就職の流儀～人生を良くする 40 の就活・メソッド』幻冬舎，2007 年。
 丹羽宇一郎『汗出せ，知恵出せ，もっと働け！』文藝春秋，2007 年。
 朝倉千恵子『すごい仕事力』致知出版社，2008 年。